

日本遺産 (Japan Heritage)



横須賀市自然・人文博物館で日本遺産を展示！

平成 28(2016)年 4 月 25 日、当館資料をふくむ横須賀市の歴史遺産が「日本遺産」に認定されました。この認定を記念して、当館所蔵の「日本遺産」を展示します。

名称 ⇒ **日本遺産「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴**
～日本近代化の躍動を体感できるまち～

博物館の日本遺産

ちんじゅふ
(日本遺産「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴」の構成文化財)

★「ヨコスカ製鋳所」、「ヨコスカ造船所」刻印れんが

⇒「ヨコスカ製鋳所」の刻印が入った赤れんがを多数展示（幕末から明治元年ごろ製造）

⇒「ヨコスカ製鋳所」の刻印スタンプを設置中

※国内に数点しか現存しない「ヨコスカ造船所」刻印れんがは、横須賀市立総合高校内で保存中。

★ 近代造船所建築図面資料 230 点（市指定重要文化財）

⇒原本 10 点を展示（日本最古の石造ドック設計図など）

⇒全 230 点を映像で展示！ ※常設展示室の「歴史資料閲覧パソコン(PC)」で「目次からみる」、「石井コレクション」を選択してご覧頂けます。

★ 横須賀港周辺の絵図(横須賀港一覽繪圖明治 12 年官許 銅版画)

⇒横須賀港一覽絵図（明治 12 年）の原本を展示

ヴェルニー記念館で展示中の日本遺産

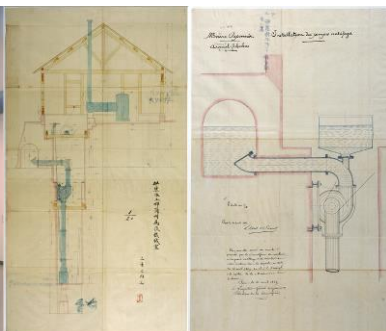
(日本遺産「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴」の構成文化財)

★スチームハンマー(旧横須賀製鉄所設置)1865 年オランダ製、0.5 トン片持型

★スチームハンマー(旧横須賀製鉄所設置)1865 年オランダ製、3 トン門型

★「ヨコスカ製鋳所」刻印れんが（本館と同時展示中！）

当館の「日本遺産」の例



展示場所

横須賀市自然・人文博物館

(横須賀市深田台 95 TEL046-824-3688)

[交通]京浜急行横須賀中央駅下車徒歩 10 分、
または、バス「文化会館前」下車徒歩 5 分

ヴェルニー記念館

(横須賀市東逸見町 1-1 TEL046-824-1800)

[交通]JR 横須賀駅下車徒歩 1 分、
または、京浜急行汐入駅下車徒歩 10 分

横須賀市の日本遺産リスト！(構成文化財一覧)

No.	構成文化財の名称	日本遺産のストーリーの中の位置づけ
1	旧横須賀鎮守府庁舎 (米海軍横須賀基地所在)	第一海軍区を管轄した横須賀鎮守府の庁舎。関東大震災で被災したれんが造の庁舎に代わり大正15年に鉄骨造で建設されました。海軍の高い技術力を証明する当時最先端の耐震建築です。
2	旧横須賀鎮守府会議所・横須賀海軍艦船部庁舎(米海軍横須賀基地所在)	鎮守府の関連施設で、昭和9年ころ建設の鉄骨造2階建て。震災後の建築としては装飾性に富むデザインで、正面入口に「横須賀鎮守府会議所」、「横須賀海軍艦船部」の表札が残っています。
3	旧横須賀海軍工廠(こうしょう)庁舎 (米海軍横須賀基地所在)	海軍工廠の入口に所在した庁舎。この建物もれんが造に代わる2代目で、震災復興は旧軍港4市の中でも横須賀市の特徴です。海軍の技術力を示す当時最先端の耐震建築(昭和2年建設)。
4	旧横須賀鎮守府司令長官官舎 (現、海上自衛隊横須賀地方総監部田戸台分庁舎)	歴代の鎮守府司令長官官舎。東京湾を一望する丘の上に建つ。大正2年、ロンドン大学で優秀な成績を収めた海軍技師の桜井小太郎の設計により完成し、洋館と和館からなる高い建築デザイン水準を示す。
5	逸見波止場衛門(市民文化遺産)	軍港の歴史と面影を伝える旧横須賀軍港逸見門の衛兵詰所。明治末から大正初期に建設された2棟の建物には「逸見上陸場」、「軍港逸見門」の表示板が残っています。
6	東京湾要塞跡 ①猿島砲台跡 ②千代ヶ崎砲台跡 ※ともに国指定史跡	首都と軍港を守る20の砲台、堡壘(ほうりい)、海堡(かいぼう)からなる東京湾要塞のうち2砲台。猿島砲台(明治14年起工)と千代ヶ崎砲台(明治25年起工)には、11年の年代差があり、石やれんがの積み方、コンクリート使用の有無など、建築技術の推移がわかります。
7	観音崎・走水地区の砲台群 ー東京湾湾口を守る最古の近代要塞	東京湾口に位置する首都と軍港を守る東京湾要塞。観音崎第一砲台は明治13年に起工し明治17年竣工した西洋の築城技術による日本最初の砲台。時代の異なる砲台が東京湾防衛の歴史を解き明かします。
8	東京湾第三海堡構造物(兵舎) ※兵舎は、うみかぜ公園に展示中で市指定重要文化財	首都と軍港を守る3つの海堡の一つ。海堡とは、人工島に火砲を設置した海上砲台のことで、関東大震災で水没した第三海堡の構造物を引きあげて市内2カ所で展示しています。鉄筋コンクリート技術の先駆的使用に加え、その施工精度は現代と比較しても高い水準を示しています。
9	「ヨコスカ製鉄所」「ヨコスカ造船所」 刻印れんが	横須賀製鉄所創設にあたり所内で生産された国産最古級の赤れんが。フランスの規格による建築用れんがで、軍港界限には木骨れんが造の造船関連施設が建ち並んでいました。
10	スチームハンマー (旧横須賀製鉄所設置) ※国指定重要文化財	1865年の横須賀製鉄所起工に伴い1866年にオランダから輸入した艦艇の建造・修理のための鍛造(たんぞう)機械。以後の継続的な近代造船の第一歩を記す遺産で、0.5トン片持形と3トン門型があり、3トン門型は平成8年まで約130年間稼働していました。
11	旧横須賀造船所第一号～第三号船渠 (米海軍横須賀基地1号～3号ドック)	軍港の景観を特徴付ける艦船修理用のドライドック(船渠)。米海軍横須賀基地内には6基のドックが現存し、最先端の土木技術の推移やドックの大型化＝艦艇の巨艦化の歴史がうかがえます。
12	近代造船所建築図面資料230点 ※市指定重要文化財、石井穎一郎氏寄贈近代造船所建築図面資料	海軍の技術力に関する資料で、西洋の技術を日本人がどのように吸収し、表現したかを物語っています。横須賀造船所の技手(ぎて)の旧蔵資料で、呉港、佐世保港などの資料を含んでいます。
13	走水水源地 ①煉瓦造貯水池(明治35年) ②鉄筋コンクリート造浄水池(明治41年) ※ともに国登録有形文化財	軍港水道走水系統は、明治9年、横須賀造船所まで7kmに土管を敷設して通水したことに始まります。半原系統整備に伴い市民給水中心に転換。水源地としては珍しく海を臨む低地にあります。明治41年竣工の浄水池は、鉄筋コンクリート造の建物として、先駆的かつ現存最古級の遺産で、旧海軍の技術力の高さを示しています。
14	逸見浄水場(※国登録有形文化財) ①観測ろ過池調整室4棟 ②配水池入口2棟 ③ヴェンチュリーメーター室	相模川上流(神奈川県愛川町半原)を水源とする軍港水道半原系統の横須賀市側の浄水地。水の安定供給を目的に明治45年に着工。軍港を見下ろす丘の上にあり、鉄筋コンクリート造の配水池入口は「白亜の塔」として往時の姿を伝えています。
15	七釜トンネル ー明治期・大正期・昭和期のトンネルが3本並ぶ独特な景観ー	明治22年開通の横須賀線のトンネル。鉄道敷設当初の明治期、複線化をした大正期、海軍施設への引き込み線用の昭和期(コンクリート造)の3本のトンネルが並んでいます。全国一トンネルの多いまち横須賀を代表するトンネル景観です。
16	横須賀港周辺の絵図(横須賀港一覧繪圖明治12年官許銅版画)	軍港とまちの発展を伝える絵図で、明治12年から明治39年までに刊行された当時の観光マップ。「横須賀港一覧繪圖」「横須賀明細式覽図」など現在9版が確認されています。

※ 当館所蔵の「日本遺産」の構成文化財は「9番(ヨコスカ製鉄所銘)」、「10番」、「12番」、「16番」の4件。